



# 「臥竜鳳雛」



\*タイトルの意味は？調べてみよう

2019・11・29 第13号

学年主任 森本 聡一郎

## 1. 「期末考査迫る」 学習モードに切り替えを

期末考査まで5日。世間ではクリスマスソングが流れ、家の庭には様々なイルミネーションが美しく飾られています。クリスマスにお正月。月日の流れる早さに、年々戸惑います。楽しいイベントの前にやらなくてはいけない事、期末考査。来週の水曜日（12月4日）から始まります。出来る限りの備えをしましょう。他人の能力を妬んだり、自分の能力を恨む前にやることあるはず！一夜漬けでは絶対に好成績は残せませんよ。3年生で経験する受験勉強に比べたら、こんな定期考査などちよちよのちよいですね。

### 試験勉強 何から始めればいいのか？ 「もう遅い？ いや、まだ間に合う！」

試験勉強って何から始めればいいのか？ というキミに少しアドバイス。

自分に合うものを見つけ、とにかく行動あるのみ。

#### (1) 部屋を試験モードにする

試験勉強スタートといっても、すぐにやる気の出ない人は、まずは環境作りから。マンガやゲーム・スマホは目につかない場所へ片付ける。

#### (2) 目標を紙に書いて貼る

「クラスで5番以内」「学年で20番以内」「欠点を取らない」など具体的な目標を勉強机の前に貼る。意識づけが肝心。

#### (3) 勉強計画を立てる

テストの日程を見て、逆算して計画を立てる。

#### (4) とにかく書け

教科書を見ているだけでは覚えられない。書いて書いて書きまくること。また、声を出して読むことも効果あり。

時間割	12月4日(水)	5日(木)	6日(金)	9日(月)	10日(火)
1	保健体育	現代社会	数学A	情報	国語A
2	国語B	物理基礎	化学基礎	数学I	コミュ英語
3		英語表現			

SHRは8:35開始です。考査中の休憩時間は15分です。

ワークや授業ノートの提出期限厳守。

補習や質問会を有効利用すること。分からないことは恥じゃない。

「聞くは一時の恥。聞かぬは一生の恥」。職員室の入室は禁止ですが、先生への質問は自由かつタダですから。

※万一、欠席するような場合は、必ず学校に連絡を入れて指示を聞くこと。考査の未受験は著しく不利になるので、絶対に欠席しないように。

## 格言

**“焦ることは何の役にも立たない。後悔はなおさら役に立たない。  
前者は過ちを増し、後者は新しい後悔を作る”**

ゲーテ（ドイツの作家）

人間とは本当にメンタル。つまり心的作用に影響されやすいものです。余裕のある時とない時では、同じことが全然違うように思えてしまいます。「病は気から」といいますが、気の持ち方一つで行動が楽になったり苦しくなったりするのですから、おかしいものです。ということで、どのみち事態が同じであるならば、キミはポジティブな心的状況にいるべきです。イライラして事態が好転するのなら苛（いら）つけばよいでしょうが、そうでないならいらいらしてストレスを溜めるだけ損です。後悔するのも同じであり、それで事態が元に戻るのならいくらでも後悔してください。

でも、そうじゃないでしょ。それなら、後悔して苦しむのは損ですよ。さあ、気分転換も大事です。にっこり笑って前向きな気持ちで取り組めれば最高です。あなたは強くなれたのです。



## 2. 「芸術鑑賞会」

11月20日（水）、「BLACK BOTTOM BRASS BAND」を招いて本校体育館で行われました。今年のテーマは「ジャズ」。1回も聞いたことがない生徒もいましたが、ジャズの誕生背景を分かりやすく語っていただき、スムーズにジャズに入ることができました。



## 3. 「12月行事予定」

12月	4日(水)	期末考査(～10日まで)
	11日(水)	考査返却(～12日) 午前中授業(～24日)
	13日(金)	GTEC(4技能)
	16日(月)	① ②限 授業、③④限学年レクレーション大会(体育館)
	17日(火)	① ～③限授業 ④限避難訓練
	19日(木)	4組JICA関西訪問 1～3組授業
	23日(月)	キャリア教育講演会(丹波篠山市民センター) ・卒業生の話(68回生の社会人や大学4年生) ・松田智恵氏(株式会社ザイマックス関西) 講演「これからの時代のキャリア&ライフを考える」
	24日(火)	大掃除・終業式・HR 西はりま天文台研修(～25日)

## 4. 「私の恩師 第1回」

学年主任 森本聡一郎

### 「私の恩師」

私は中学3年の12月、生涯の恩師と呼べる教師に出会った。陸上部でさほど強くもない私を勧誘に来てくれたのだ。走ることを通して目標を設定し、努力を積み重ねて結果を出し、自信をつけていく過程の大切さ。そして、人としての生き方を教えてくれたのが米井勝秀先生（元福知山商業高校陸上部監督）だった。先生は30歳まで大阪でサラリーマンをされていたが、当時、低迷していた母校の駅伝を強化するため昭和50年9月から社会科の先生として教壇に立たれた。口数は少なく、決して多くを語らない。長いミーティングなどは行わず、練習後は「お疲れさん」と一言。先生と生徒の信頼関係、コミュニケーションが大切とされる現代のなか、先生は生徒との間に一線を引いた。

しかし、私たち部員はそんな先生を恐れ、そして尊敬した。なぜなら、1年中練習には最初から最後までグラウンドに立ち、生徒を見守る姿があった。練習が休みになるのはお盆と年末年始に3日ずつ。さらに、先生の自宅には7～8名の生徒が寮生活をし、生徒と寝食を共にした。先生もすごいが、奥さんがもっと偉い。毎朝、生徒の朝食を作りながら弁当を10個ほど作らなければならない。風呂は1つしかないので、生徒が入った後に家族が入るという状態である。すべて生徒が中心。そんな先生や奥さんの姿を見て、私たち部員が頑張らない訳がない。しかし、駅伝では1度も京都府大会で優勝できなかった。2位・3位・2位と洛南や立命館宇治には勝てなかったが、今思えば負けて学ぶことも多くあった。1度も勝てなかったから今の私があるのかもしれない。

私は大学を卒業後、2年間のサラリーマン生活を経験したことで本当に自分の将来や夢を考えた。そして、24歳で非常勤講師として教員をスタートした。

目の前の君たち140名は懸命に「高校生」という時を生きながら、自分の人生を考えようとしている。毎日、目標をもって頑張る君たちに私は伝えたい。

『夢をもって頑張れば、夢は必ず実現する』

私はいつか生徒から「恩師」と呼ばれるのだろうか・・・。



次回は、1組担任の西本智子先生です。